NO. 2014. 34 号
発行日：2014 年 2 月 7 日

検査のパレット

今回は前回に続き消化管のコンパニオン診断についてお話ししたいと思います。

（胃癌におけるＨＥＲ2 検査について）

検索対象組織：胃癌の原発巣または転移巣のホルマリン固定パラフィン包埋組織の薄切切片を使用する。　浸潤部/非浸潤部に関係なく全ての癌部を検索対象とする。

腫瘍細胞の確認：標本の選択は日本病理学会認定専門医が行い、癌部分を含む標本をＨＥ染色で選びその組織切片を作成する。手術材料で複数の標本が癌部を含む場合でも、代表的な１枚の標本で判定する。

胃癌の治療薬について：ＨＥＲ2 過剰発現が確認された場合は、治癒切除不能な進行・再発の胃癌患者に対する治療薬としてトラスツズマブ（ハーセプチン）が用いられる。

（大腸癌におけるＥＧＦＲ及びＫＲＡＳ遺伝子変異について）

検索対象組織：最も推奨される検査材料は、ホルマリン固定パラフィン包埋組織及び薄切切片を使用する。

腫瘍細胞の確認：ＨＥ染色標本で、腫瘍細胞の占有面積が全体の 50%程度を占めているものを検体とすることが望ましい。生検組織は基本的に全て腫瘍細胞の存在比率が確かめられたパラフィン切片として検査に使用されるべきである。

大腸癌の治療薬について：ＥＧＲＦ陽性が確認された場合は、治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌患者に対する治療薬としてセツキシマブ（アービタックス）注射液が用いられる。

ＫＲＡＳ遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌患者に対する治療薬としてパニツムマブ（ベクティビックス）点滴静注が用いられる。

※　胃癌におけるＨＥＲ2 検査と大腸癌におけるＥＧＦＲ及びＫＲＡＳ遺伝子変異の結果の解釈については、昨年の検査のパレット 23 号、及び 24 号に記載してありますのでそちらを参考にして下さい。

今後とも、中央検査科をよろしくお願いいたします。

文責：松村数範　　監修：石竹久仁